

愛知豊明花き地方卸売市場における鉢物の状況変化

豊明花き株式会社
福永 哲也

花卉業界に及ぼした影響

本年は1月当初より前年を上回る取引を毎回重ね、順調に推移しておりました。

しかし、2月27日に安倍総理より全国すべての小中高校に臨時休校要請の考えが公表されると、卒園式、卒業式、謝恩会といった卒業シーズンの行事に使用される装飾、ノベルティ、贈答などの花き消費に大きな影響を与えました。

さらに3月6日の福島Jビレッジからの聖火リレーの中止、3月24日には東京オリンピック、パラリンピックの1年延期が決定し、花き業界一丸となって取り組んでいたビクトリーブーケも先送りとなりました。ビクトリーブーケは2014年のソチ冬季大会を最後に、2016年のリオ夏季大会、2018年の平昌冬季大会と、副賞のブーケが使用されなくなったことを受けて、花きに関わる9団体、(一社)日本花き生産協会、(一社)日本花き卸売市場協会、(一社)JFTD、(一社)インドアグリーン協会、(一社)日本生花商協会、(一社)日本花卸協会、(公益)日本いけばな芸術協会、(公益)日本フラワーデザイナー協会、(一社)花の国日本協議会が日本花き振興協議会を組織して、オリンピック組織委員会や政府与党、国などの関係機関に働きかけ、6年振りに復活することが決定したものです。幸い、中止ではなく延期でありますので、来年に向けて準備を進めることになりました。

4月7日には東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言が、さらに4月14日には全国に緊急事態宣言が発出されました。

この時点で休業要請される業種、イベントの中止、延期などの先行きが不明確であったために、母の日ギフトの取引にも影響が出ました。

国民生活の維持に必要な業種と福祉施設以外は休業要請が出され、不要不急の外出を避けたステイホームが呼びかけられました。卸売市場は生鮮食料品等の流通を行うために、事業継続計画を定めて、適切な感染予防対策を講じながら事業継続が求められました。

当社においても役員、パートの毎朝の検温と体調に関するアンケート調査、必要に応じて自宅待機による経過観察、場内30か所に消毒液の設置と利用、競り室の座席を隔席に制限、競り端末消毒用に除菌シートの設置、場内でのマスク着用と手洗い、うがいの励行、出入り口に除菌マットの設置、等々の実施で感染予防に努めながら日々の業務を継続しました。なお、現在もこの措置は継続しております。

生花店、園芸店、ガーデンセンター、ホームセンター、スーパーマーケットなどの花きの小売現場は事業継続をする業種でありましたが、テナントとして入っている商業施設が閉鎖されることで休業を強いられたケースもありました。

5月25日に全国的に緊急事態宣言が解除されても、イベントや会合、商談会などの開催は自粛され、いわゆる夜の街もひっそりと静まり返る日々が続きました。

このような状況下、鉢物で最も影響を受けたのは胡蝶蘭でした。

なかでも大輪の胡蝶蘭は式典、開店祝い、周年祝い、夜の街でのギフトなどが主たる用途であり、行き場を失った胡蝶蘭は相場もたたない事態となり、産地では切花に転用したり、消費者への直売を試みる動きもありました(グラフ:ファレスタンドの売上高推移)。

例年は法人や組合の定時総会が多く開催される2月、式典や謝恩会、異動の3月に需要が高まります。今年は2月までは例年並みに動きましたが、3月に学校関係の行事が不透明になり影響が出ました。3月中頃から持ち直すかと思われましたが、緊急事態宣言の発出された4月には飲食店関係が営業自粛となり、いわゆる夜の街需要が消滅しました。

5月の母の日ギフトは高齢者への感染予防から訪問して届けるよりも、宅配によるお届けが選択され、容積率の高い大輪系胡蝶蘭はふるいませんでした。6月には年度末決算の定時総会が開催されますが、この時期になるとリモートや書面決議での開催を選択する法